

新発田青少年健全育成市民会議だより

は ば た き

市民みんなで手をたずさえて

少年団体の活動を振り返って



子ども会連合会 H21.8.21～23
「加賀市・新発田市子ども会交流会」



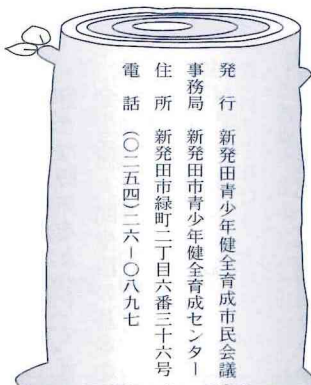
健民少年団 H21.6.20～21
「乙少年自然の家」2009カヌーキャンプ



新発田地区緑の少年団育成会 H21.5.31
「紫雲寺さえずりの里」野鳥観察会



ボーイスカウト新発田第1団
「新春の集い」 H22.1.10



スポーツ少年団
「第29回新潟県スポーツ少年団
総合体育大会
第40回柔道大会」 H21.9.13

青少年健全育成講演会 (平成三十二年一月二十四日)・(生涯学習センター講堂)

演題 「為せば成る」 (要旨抜粋)

日本文理高等学校野球部監督 大井 道夫氏



プレッシャーを気力で克服

○子どもたちは、自信を得たときに飛躍的な成長を遂げる。

・甲子園入りのときは、表情も固く、練習でもすっきり緊張していた。

・一回戦
日本文理4ー3寒川(香川)
・二回戦
日本文理12ー5日本航空(石川)
・三回戦
日本文理11ー3浜南(島根)

日本文理の成績

・準決勝
日本文理2ー1県岐阜商(岐阜)
・決勝
中京大中京(愛知)10ー9日本文理



○子どもたちの「約束」が気力を支え、二倍、三倍の力発揮となった。

・炎天下の準決勝は、強豪の県立岐阜商業高校であり、勝利を望むことはできなかったが、伊藤投手の一世一

代の力投で、奪三振十一の成績で相手打線を封じ、チーム全体の気力が高まって勝ちとることができた。

・最強豪の中京大中京高校との決勝戦を迎えるときは、これまでの力も出しきり、疲労も極限に近かった。

・決勝戦の朝のミーティングで、約束してもらいたいことがあると、私が切り出した。「この日まで、みんなが力以上の力を出しきって、頑張ってきたことはわかり、感謝している。」

・今日の決勝戦で勝っても負けても、新潟へは「笑顔で帰ろう。」と、最後の気力を絞って誇りをもって戦おうと投げかけた。

・キャプテンからも、伊藤投手を中心に頑張ることが述べられ、伊藤投手も「自分も腕が折れても力を尽したい」との言葉があり、気力がまとまって球場へ出発した。

○球場いっぱいにわき起る「大声援」に感動

・決勝戦では、六回での大量失点のまま迎えた最終回で、粘りの気力が奇跡に近づいた。

・バッターボックスに伊藤が入ったとき、「伊藤コール」が球場いっぱいにひびいた。

・甲子園で高校野球が始まって以来の大歓声で、異常な高まりに私自身が鳥肌が立ち、感動した。

子どもたちの指導で、大切にしていること

○目的にむけての努力こそが人間形成で大切であること

・日本文理高校へ着任して以来の願いが、「子どもたちに自信をもたせる」ことであり、私自身の励ましとして、『為せば成る、為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなり』を部訓として教えるに当たっている。

○親への感謝とモノへの感謝を実践することが大切であること

・生徒は学校での勉強が第一であり、勉強以外の好きな野球のために、親へ多くの負担をかけてはいけない。また、野球用具を大事に扱

わねばならない。

・好きな野球をとうして、社会生活、人間生活の基本を学ばせるために、最も大切にしていることが、感謝の心である。

○自分の『気配り』で場面々々を切りひらき、対処していくことが大切であること

・「野球は監督がやるのではない」ことを子どもたちに強く教えている。

監督の指示を待つのではなく、それぞれの場面で自分の判断、気配りで対処していくことは、社会一般の生活でも大切なことと考える。

めざせ「全国制覇を」

○新潟の子は「ひっ込み思案」を捨て、自ら前へ突き進む気構えで甲子園を勝ち抜いてほしい。

・これまでの呼びかけであった「行くぞ甲子園」、めざせではなく、甲子園で全国制覇をと、ハートに揺さぶりをかけたい。

・持ち前の粘り強さをもって「ハートで勝負を」の根性をもって勝ち抜いてほしい。

大井道夫監督に学ぶ

信じることを任せること

高橋 大作

部活動と人間形成

長谷川 健一

今年の青少年健全育成講演会は、昨夏の甲子園大会で、最後まで諦めない驚異的な粘りで感動の決勝戦を戦った日本文理高校の監督、大井道夫氏をお招きし、「為せば成る」という演題でご講演をいただきました。

甲子園での決勝戦までの様々なエピソードのみならず、選手のモチベーションを上げるため、県内の初めてグラウンドに『全国制覇』の横断幕を掲げた野球部の活動の様子なども大変興味深くお聞きしました。

自らも甲子園に出場した大井氏の豊富な経験に支えられた指導力や、失敗しても叱るだけではなくむしろそこから多くのことを学ばせる練習、選手のやる気とチームの連帯感を信じて最後は全てを任せるという信念、そして大好きな野球だから最後まで諦めずにプレーを続けたいと願った選手の姿勢などは、多くの示唆に富んでいました。

今後、私達の健全育成活動に於いても非常に参考になることが多かったと感じました。(副会長)

昨年の夏、新潟県民に『最後まで諦めない気持ち』、とそして『勇気と希望』を与えてくれた日本文理高校野球部大井監督の講演会、楽しみにしていたと通りの講演会でした。

大井監督は、『生徒が野球を上手になるために指導しているのではない。野球を通して挨拶、礼儀、感謝などの人間形成を教えている』『生徒はひとつ自信を持つと大人が考えられないくらい成長する』『生徒に自立を持たせる指導をし、こちらからは何も言わず、生徒が望む時にはトコトンかなえてやる』『お洒落に目ざめて眉毛を剃ってきた生徒には、マジックで眉毛を書いてやる』など、時にはユーモアを有りの有意義なお話でした。

講演を聞いて部活等をしている自分子ども(高、中、小)を思いだし納得し、日頃、部活等を通して人間形成、自立性、忍耐力、協調性等を子どもたちに指導して下さっている先生方、監督に改めて感謝する一日となりました。

(猿橋PTA会長)

平成二十一年度(平成二十一年十一月二十日)

青少年はぐくみ環境懇談会

主催 新発田青少年健全育成市民会議

市民会議では、青少年をとりまく社会環境への認識を深めるため、関係機関や企業等と懇談を重ねて、情報の共有と活動の連携を図っています。

懇談会での報告・発表の要旨(抜粋)をお知らせいたします。

◆新潟県新発田地域振興局児童相談所

所長 加瀬 博様

○子どもをとりまく問題は、社会の変化と共に大きく変わる。

・問題行動の発生要因も質的に変化している。

・子どもは社会の中で一番弱い存在として、その影響を受けやすい。

○「児童虐待」も年々増加傾向にあり、地域や国の問題として、予防や子育て支援等の対応をしていかねばならない。

○法律や制度と相まって、昔



◆市立東中学校

伊東 寿明様

出会い系サイトによって、監禁・脅迫されたりした事例がある。

○子ども達の携帯電話使用には、その内容についての「良し悪しの判断力」を身につけさせねばならない。

○携帯電話使用の基本は、「ルールやマナー、法律を学んでから」が前提である。

・自動車運転は、免許を取得するための学習や経験を身につけさせることによって安全が維持されている。

◆県立新発田農業高等学校

渡辺 義之様

○生徒の携帯電話所持率は約九割であり、その指導は、授業中の教室持込は禁止として、個人用ロッカーに収入することとしている。

○携帯電話によるトラブルは学校側で知らないところで起きていると思われ、指導上の課題である。

◆業者(NTTドコモ、KDDI)の協力

○企業も利便性の追求だけでなく、危険や安全確保のための機能の充実や、「携帯安全教室」の開催等に努めている。

”人とかかわり“を どう育てるかを考えましょう②

現代社会を背景として、子どもたちはお互いの交流や接触の機会が少なくなっているようであり、人とかかわりを深め、あたたかな心のふれ合いを求める指導について述べていただきました。

あいさつの声かけ

宮澤 弘子

地域パトロールや、クラブ活動ボランティアを通じて、子供達との身近なふれあいの場にたくさん出会います。登校時間過ぎ、校区の田んぼのあぜ道に、何か考えこんでるように腰おろしている一人の小学生、車止め声かけ学校へ。降りる時、か細い声で”アリガト”。知ってる人で安心だったのでしょうか。登下校に限らず、色々な場で会う子供、私より先に、大きな声で、”こんにちわ”に、ポツと心が温かくなる。小さい事の中でも、この挨拶が心の交流の窓を開いてくれるようだ。ゲーム、携帯など普及の今日、大人はもっと、もっと子供達と視線を合わせ、遊び、コミュニケーションをとって行かねば！と思うのです。

(上館)

挨拶と感謝の言葉を大切に

永倉 弘子

言い古されていることですが、人づきあいの基本は挨拶。人との出会いの最初は挨拶ですから、第一印象を大きく左右します。企業の新人採用面接で挨拶を重視しているという話も聞きます。こちらが挨拶をしたのに返してくれなかったりすると、どうにもおもしろくありません。挨拶の次に大切なのは感謝の思いを伝えることだと思います。「ありがとう」と言われたら誰でも気持ちがいいもの。「ありがとう」は自分の気持ちを相手が受け入れてくれた証拠ですから、「これからもおつきあいしていきます」と安心できます。大人は子どものモデルです。大人のやり方が、子どもたちの基準になっていくと思います。

(豊浦)

カレンダーから絆へ

相沢 久明

私の住む湖南集落では、15年ほど前から、「湖南カレンダー」を作成し、毎年各家庭に一部ずつ配布されています。紙面には、集落行事の写真や金婚、米寿などの祝事の写真が印刷されていますが、特に輝き続けている紙面があります。

それは、赤ちゃん誕生の写真、入学、成人、結婚、そしてまたその子の赤ちゃん誕生の写真……と、集落の子供達一人々々の成長する姿が祝事として紹介され続けています。毎年、湖南カレンダーが配布されると決まって聞こえてくる言葉は、「この子どこん家の子らる？」「へえ、もへこんげおつきよなつたんけい」など、時の話題は、暖かく明るく花を咲かせています。

これからも、子供達の成長を集落全体で見守り続ける絆づくりに役立っている「湖南カレンダー」です。

(湖南)

地域と共に

子供達に接する

当地区では、五ヶ字振興会と称し年間の行事の一貫として、取り入れている地区の、大運動会を紹介いたします。開会に当り挨拶は、「築こう日本一住み良い五ヶ字を」と題し、六つの行政区から成る組織で構成し、種目を小さな子供達、そして老若男女の触れ合いを通じた、レクリエーション競技、特に親子競技は日頃顔の合わせたことのない人達、そして他所から嫁いできた若いお母さん方、或いはお父さん方の絶好の交流の場であり、子供



達を通じ、仲間作りが行われております。一方の団体競技では、点数で競う種目の対抗リレーは、低学年、中学生、年代層の走りで、各行政区の優勝をも左右する一番気合が入る種目です。

最後は講評を頂き、閉会式を終えて各行政区へ帰り、子供達と一緒に、慰労会を兼ねた反省点を語り、最後に万歳をし片付を全員で行い、解散となる。こうした様々の機会を通じ、親子の触れ合い、或いは子供達と接する大切さをもう一度、見つめ直して見ようでは、ありませんか。

(紫雲寺)

「五ヶ字」地区では、伝承芸能として伝えられる、「五ヶ字神楽」子ども会があります。

地区では、これを子ども達に伝える活動をとおして、郷土愛を健全育成に成果をあげています。

(編集部)



ふるさとに誇りと愛着を

「豊浦ふるさとかるた」によせて

田村 光雄 (豊浦)

自分の心に「ふるさと」が根付いている人は、生きる道を誤らず、たとえ誤っても立ち直れる。

私は、教員生活を通じていつしかこういう思いを強くしていました。

そこで、後半に勤務した学校や地域では、ふるさとについて「かるた」や「歌」でそれぞれの地域の素晴らしさを取り上げ続けました。まず、自分のふるさとを知ることから、誇りと愛着が自然と身につくのではないかと考えたからです。

* * *

定年退職後、いつか豊浦のかるたもと思いながら、専門学校勤務が多忙のため、着手したのは平成十八年、翌年勤務も辞め取り組みました。完成までに二年かけ、六百部の冊子を作成しました。(後日二百部追加)

一番苦労するのは読み句についての説明文です。一句あたり一千字弱、小学校高学年程度を対象にした文面にしました。正確を期すために関係者、機関に随分足を運び、たくさんの方から協力をいただきました。写真もたくさん使いましたが貸して

いただいたのも多いのです。改めて感謝致します。

* * *

豊浦地区の小中学校五校の図書室ほかに寄贈し、各小学校でのふるさとの歴史出前授業を続けています。毎年1時間ずつの限られた時間ですが、ふるさとの誇りと愛着への出発点になればと考えています。

かるたの実物は多くの方の協賛を得て豊浦地区青少年健全育成協議会が百三十セット作成し、地区の小中学校、保育園等に寄贈しました。絵札の原画は小学生の作品です。贈呈式当日、多くの人の前でふるさとについての私の思いを話す機会も与えていただきました。

豊浦地区文化芸能祭当日、ジャンボカルタ大会も開催されましたが、学校や保育園でも時折かるたとりを実施しています。私の所属する「上本田寿クラブ」でも、童心に返り新年会などできるたに興じています。

ふるさとに目を向けるこうした輪が広がることを期待しています。

(副会長)



各育成協議会等の活動(抜粋)

本市では13地区の育成協議会等がありますが、本号では、先号に続き6地区の活動を報告いたします。

○東豊学区青少年育成協議会

(東新町、豊町)

- ・あいさつ運動
- ・三世代ふれあいゲートボール大会
- ・下校時パトロール

・広報紙の発行

○東中学校区すこやかな子どもを育てる会

- ・愛の一声運動、防犯パトロールの実施
- ・児童生徒の交流活動
- ・広報紙の発行

○外ヶ輪小学校区青少年育成連絡会

- ・あいさつ運動、パトロール作戦、愛の一声運動
- ・(本町)教育懇談会、講演会、広報紙の発行
- ・(緑町)ゲートボール大会、おはなし会とクリスマス
- ・(大手町)なかよし花壇、会報の発行、環境点検
- ・(城北町)花火大会
- ・(新富町)クリーン作戦、切手・空き缶等の回収

○七葉中学校区すこやか育成会

- ・講演会の開催
- ・地域パトロールの実施
- ・地域美化活動
- ・ウォークラリー、餅つき大会(菅谷小区)
- ・地域美化活動(七葉中、七葉小区)

○加治川地区青少年健全育成協議会

- ・スクールカウンセラー講演会
- ・パトロール活動の実施
- ・夏休み生徒指導
- ・広報紙の発行

○猿橋小学校区青少年健全育成協議会

- ・地域子供懇談会
- ・健康ウォークぶどう狩り
- ・オータムフェスティバル

笑顔あたたか、すくすくと

「豊かな感性を」

大川原 さとみ
(加治川)

全国中央審査会入賞！

(平成二十一年度 歯科保健図画・ポスター・標語コンクール)



これは、加治川中学校三年、美遠さゆりさんの作品です。

新発田市審査第一位、新潟県審査第一位、そして全国の中央審査会へ。そこでもみごと佳作賞を受賞しました。

こらんとおり、とてもほほえましいポスターです。県の画評でも高い評価を得ています。

このポスターにあやかって、「八十歳になっても、二十本の歯で」食べたいものです。

このコンクールには、さゆりさんだけではなく多くの児童・生徒が応募し、さまざまな賞を

受賞しています。

こうした豊かな感性をずっと持ち続けてほしいと思います。

祭をとおして

小宮 皓
(大手町)

町内や地域に子どもたちの声が消えて久しい。しかし、ようやく四五年前から子どもたちの元気な声が聞こえるようになってきた。空き家や空き地が目立つ町内に近年、新しく住居を構える若い人達が増えてきたからである。

地域に子どもを引っ張り込むには地域活動が必要である。

「花のある町づくり」「笑顔で挨拶する町づくり」「祭をとおした町づくり」など地域の実態にあった活動が考えられる。

幸いなことに、わが町内には昭和五十七年に町内の先輩達が子どもたちのために作り残してくれた立派な樽御輿がある。

夏の新発田祭、秋の新発田豊年祭、年一回の御輿の引き出しに町内の子どもたちは勿論、内孫外孫全員参加で盛り上がる。

大切なことは、「大人も子どもと共に活動すること」を基本とし、「子どもの目線に立つこと」「子どもをお客にしないこと」などに留意して企画している。

横断歩道で

加藤 清
(紫雲寺)

れんぎょうパトロールとして、横断歩道に立つて登校する小学生達を見守って一年、高学年の班長を先頭に一年生まで一列に並び、大きな声で「おはようございます」と言う子、又なかなか声が出ない子といういろいろありましたが、一年もたつととても大きな声が出る様になりました。

そんな子供達が横断する時手を上げてなかなか止まってくれない車が結構多いのに驚きます。朝の大事な時間一分でも一秒でも早く会社に行きたい気持ちばかりですが、何台も連なる車列の所を横断する子供達に、十秒か十五秒、大人の優しさを子供達に見せてもらいたいものです。

止まってくれた車には皆頭を下げて「ありがとうございまして」と言う子供達の姿を見てもうれしいと思います。今年度もあと半月余り、ピカピカの一年

生を見るのを楽しみに寒さの中横断歩道に立つ毎日です。

親子の楽しみ

成田 真由美
(豊浦)

独身の頃から私の趣味で楽しんできたキャンプですが、母となった今では、親子で楽しんでいます。

息子にしてみれば、物心つく前から知らず知らず連れて行かれていたキャンプも、今では息子の方から行きたいと言ってくれます。

いつもは甘ったれで、頼んでも手伝いをしなかった息子が、ある日のキャンプでは、テントの設営から、はてはお料理まで色々としかも率先して手伝ってくれ、なんとも頼もしく感じた瞬間でした。

また、現地で初めて出会った同じ年頃の子供達とすぐ仲良くなり、川遊びや虫とりなど自然の中で楽しむ姿は、とても微笑ましいと感じました。

これからも、キャンプを通して親子で楽しみながら、息子の成長を見守っていきたいと思います。

あとがき

「健全育成講演会」は、三百名を超える参加者が、大井先生の熱弁に深い感銘を受けました。

× × ×

人間関係の不調和、不適応に悩む子どもが多いといわれる今、大人達がどのように対応したらよいかを述べていただきました。

日常生活の状況に、指導の基本があることを大切にしたいものであります。

× × ×

陽春の春は、気持ち新しく動き出す季節です。各育成協をはじめ関係の方々のご発展をお祈りいたします。

(槇坂)

編集部

弘み子 緑夫子
宣さ富 忠房
坂原 辺田 井山
槇大 渡金 櫻青

